

年頭のご挨拶

社団法人 日本金属学会 会長 宮崎 修一

皆様、新年明けましておめでとうございます。

本会は、公益法人制度改革に伴い、金属およびその関連材料に関する学術および科学技術の振興によって、公益(不特定かつ多数の者の利益)の増進に貢献することを明確にして事業を推進しています。

以下、本会の昨年の成果の概要を報告すると共に本年の活動方針について述べます。

本会は、理工系学協会の先頭を切って、公益社団法人への移行を目指して計画的にかつ丁寧に、定款、細則および諸規程の改訂を進め、本会のすべての事業の公益目的事業化および財政の収支相償等の実現ならびに法人運営におけるセルフガバナンスの強化など移行認定に向けて諸対策を講じてきました。これまでの間のご関係の皆様のご理解、ご尽力に厚く御礼を申し上げます。昨年7月31日に公益社団法人への移行認定の申請を行いました。内閣府公益認定等委員会からの補正・修正に対応し、本年3月1日に現法人の解散と新法人である公益社団法人の設立を行う予定です。公益目的事業の推進にこれまで以上に力を注ぐこととなります。



第1の公益目的事業である刊行事業について、会報「まてりあ」は、会員のみならずこの分野に関心のある研究者および技術者への情報発信・情報交換と啓発・教育の場であることを強化します。和文誌「日本金属学会誌」は、本日から個人の研究目的に限定した完全フリーアクセス(無料ダウンロード)の導入をいたしました。欧文誌「Materials Transactions 誌」は、昨年1月から実施した刊行後1年経過論文のフリーアクセス化に加え、諸対策を検討して、インパクトファクター向上に繋げ、読者と投稿者にとってより価値が高まることを目指します。

第2の公益目的事業である講演会・講習会事業としては、まず春と秋の講演大会が基本になります。ここでの発表や討論を基にして、研究が進展し、論文を介した情報発信、さらには講習会のテーマに繋がります。昨年の秋期講演大会は愛媛大学で開催されました。実行委員の皆様のご尽力により大会は盛会裡に運営されました。しかし、講演件数1,055件は一昨年の沖縄大会より442件の減少でした。最近の他の大会と比べても約200件の減少です。初の開催地でありまた各種の講演大会活性化施策を試行した沖縄大会は例外的に多く、その影響が昨年の秋にも続いた可能性もありますが、今後、原因の解明と対策を検討いたします。本年の講演大会は、春は東京理科大学、秋は金沢大学で開催予定です。多くの講演が行われ、金属および材料工学分野の研究発表の活性化を期待します。講習会関係では、昨年は金属学会セミナーと分科会シンポジウムを各2件実施し、本年も各1件行う予定です。

国際会議開催事業に関しては、本会主催のシンポジウム JIMIS-11 (The 12th International Conference on Creep and Fracture of Engineering Materials and Structures) が昨年5月に京都で開催され、これまで行われてきた12回の Creep に関する本会議において最大の発表147件と参加者229名を記録

し盛会裡に終わりました。さらに、今年8月には、ハワイでPRICM8(The 8th Pacific Rim International Conference on Advanced Materials and Processing)が開催されます。今回は、米国TMSが主催で、中国CSM、日本JIM、韓国KIM、豪州MAが共催になります。その次のPRICM9は本会が主催し、2016年に京都で開催予定です。PRICM8の終了後に本格的な準備に入ることになります。

第3の公益目的事業である調査・研究事業のうち、国内外の学協会との連携につきましては、これまで同様重要な課題として取り組んでおります。国内においては、日本鉄鋼協会との連携を堅持し、材料系学協会とは材料戦略委員会および材料連合協議会を通じて連携します。とりわけ材料戦略活動においては、昨年度から5か年間の予定で進められている第4期科学技術基本計画に具体的に貢献するために、本会が世話学会として積極的に取り組んでいます。また、文部科学省の科学研究費補助金制度は、今後10年間のあるべき姿を検討して「系・分野・分科・細目表」が大改正され、今年度から適用されます。詳しくは2012年の「まてりあ」51巻9号をご参照下さい。材料分野の研究開発を通じて社会への貢献が期待されます。国外との連携では、大韓金属・材料学会(KIM)と本会(JIM)は、お互いの講演大会の折にKIM/JIMジョイントシンポジウムを交互に企画しています。また、両会の会長が講演大会で毎年招待され挨拶のスピーチを行っています。私事で恐縮ですが、昨年秋のKIM講演大会で韓国語による4分間のスピーチを行い、会場から温かい拍手を頂きました。政治的には両国間に緊張することもありましたが、学術分野では友好状態が保たれていることを実感しました。また、米国TMSとのYoung Leader International Scholar Programでは、選抜された若手研究者を双方の春期講演大会に派遣し、講演発表と共に希望する研究施設の見学の機会が与えられています。今年も派遣者が決まっており、友好を深めて頂きたいと思えます。また、材料系国際学協会連携組織であるIOMMMS(International Organization of Materials, Metals & Minerals Societies)では、World Materials Dayを制定し「材料に関する知識とその重要性を社会や若者に啓発する活動」に貢献があった学生を顕彰しています。昨年も秋期講演大会の折に選ばれた学生グループを推薦しており、将来、材料の研究・開発を通じて社会に貢献できる人材に育つことを期待しています。本会独自でも、中高生に金属学を基礎にした材料工学のおもしろさ、重要性、産業発展と生活向上への貢献等を伝える方策の議論を人材育成委員会で進めており、本年からの実施を目指しています。

第4の公益目的事業である表彰・奨励事業につきましては、学生、若手研究者、中堅研究者および国際的研究者に至るまで研究・技術分野に功績があった方を対象として広く授賞を行っています。また公益目的事業化により、一昨年より授賞は非会員にも行えるように拡大しています。日本鉄鋼協会との共同事業である奨学賞も授賞対象校の拡大をいたしました。是非、優秀な受賞候補者を積極的にご推薦頂きたいと思えます。

昨年2月14日で本会は創立より75周年を迎えました。諸先輩方のご活躍と金属等材料研究で世界をリード頂いてきたご貢献に御礼申し上げます。また、我々現役および次世代を担う若手にも是非頑張ってもらい、本会の活動が世界をリードし続けて行けるよう願っております。

以上、年頭に当たり昨年からの本会の事業経過と今年の活動の概要を説明いたしました。最後になりましたが会員の皆様のご健勝とご発展を祈念してご挨拶とさせていただきます。

2013年1月1日